

東 奥 日 報

2019年(平成31年)3月1日(金曜日) (12)

八 戸

中心街のまちづくり 八工大生が提案説明

市長、高く評価

八戸市中心街のまちづくりに関する八戸工業大学学生の提案説明会が2月22日、市庁で開かれた。今秋オープン予定の屋内スケート場までの誘導案内板設置や横丁の環境整備など熱意あふれる学生たちの提案に、小林眞市長は「具体的に考えたい」と身を乗り出すなど真剣に聞き入っていた。同大と市、第3セクター「まちづくり八戸」が締結した覚書に基づき、同大学生たちが快適なまちの実現へ向けた課題発見と解決に取り組んでいる。本年度は土木建築工学科の3年生が6班に分かれてアイデアを



小林市長（右端）らにまちづくりのアイデアを説明する八工大の学生たち（奥）

のカメラで読み取れば多言語で地図が表示されるQRコードも配置するとした。小林市長は「6つのアイデアのどれも素晴らしい」とした上で、案内板について「これは必要。看板に複数言語で表記

練り上げ、各班の代表が市長にプレゼンした。

玉澤佑大さんらの班は、市中心街から屋内スケート場に至る経路の案内板設置を提案。迷いそうな交差点や利用者が多い施設の前など6カ所に設置し、進行方向と開かれる大会名称の日本語表記のほか、携帯端末

すると見づらくなることがあり、QRコードによる案内はいいアイデア」と高く評価した。

学生を引率した同大の長谷川明学長は「学生たちはこれまで大学で身につけた知識を総動員して課題解決に当たっている。こういう機会が成長につながる」と話していた。（若松清巳）

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」